

再評価項目調査書

再評価実施要件		○事業採択後（      年） ●再評価後（ 5年） ○その他（      ）					
1 事業 概要	事業名	あぶらかわ 油川 都市基盤河川改修事業					
	事業場所	山口市宮野下 地内					
	事業主体	山口市					
	事業期間	《 前回評価 平成 26 年 時 》 平成 16 年度 ~ 令和 9 年度 《 令和 9 年度 》 ( 西暦 2004 年度 ~ 西暦 2027 年度 《 西暦 2027 年度 》 )					
	総事業費 (内用地補償費)	≪ 2,847 百万円 ≫ 2,847 百万円 ( 445 百万円 )	既投資額 (内用地補償費)	1,675 百万円 ( 78 百万円 )	進捗率 (用地補償費)	59 % ( 18 % )	
	事業目的	榎野川水系油川は、その源を七尾山に発し、南下して山口市の市街地に入り、榎野川と平行して南西に流下し、支川の江良川と合流して、榎野川に注ぐ幹線流路延長3.6km、流域面積5.71km <sup>2</sup> の二級河川である。洪水に対する安全度が低く、河川の氾濫による浸水被害が発生していることから、治水安全度の向上を目的として河道改修（T=1/30）を実施する。					
	事業内容	延長L=1,200m (河道掘削工、築堤工、護岸工)					
事業効果	油川年基盤河川改修事業を行うことで、9号線から榎野川までの区間に年超過確立1/30に対応した河川断面等が確保され、油川と隣接する自衛隊訓練施設及び低地地域の浸水被害が低減する。						
2 再評価の視点	(1) 社会経済情勢の変化	油川流域はこれまでも梅雨、台風時の豪雨により浸水被害を引き起こしてきた。昭和47年には集中豪雨により浸水面積6ha、浸水家屋25戸、また近年においても、平成2年には梅雨前線豪雨により浸水面積5ha、浸水家屋7戸、平成5年には梅雨前線豪雨により浸水家屋10戸の被害が発生しており、これらの浸水被害を解消するため、治水対策を実施する必要がある。				中項目 評価	大項目 評価
	関係市町及び地元の意向	【地元の推進体制等の状況】 地元住民の防災意識・関心度は高く、治水事業の推進に協力的である。  【地元の意向】 過去の浸水被害の発生により、地元の治水安全度向上の要望は強い。				中項目 評価	A ・ B ・ C
					(a) b	(a) b	

2 再評価の視点	(2) 事業の投資効果	費用対効果分析等	<p style="text-align: right;">(単位：百万円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">主な項目</th> <th colspan="2">前回 (基年：H26)</th> <th colspan="2">今回(再々評価) (基年：R1)</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>全体事業</th> <th>全体事業</th> <th>全体事業</th> <th>残事業</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">便益 (B)</td> <td>①一般資産増減便益</td> <td>38,041</td> <td></td> <td>35,258</td> <td>35,258</td> <td></td> </tr> <tr> <td>②農作物増減便益</td> <td>22</td> <td></td> <td>30</td> <td>30</td> <td></td> </tr> <tr> <td>③土木施設等増減便益</td> <td>64,431</td> <td></td> <td>59,710</td> <td>59,710</td> <td></td> </tr> <tr> <td>④その他の便益</td> <td>2,527</td> <td></td> <td>4,184</td> <td>4,184</td> <td></td> </tr> <tr> <td>総便益</td> <td>105,021</td> <td></td> <td>99,182</td> <td>99,182</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="4">費用 (C)</td> <td>①事業費</td> <td>2,887</td> <td></td> <td>3,082</td> <td>997</td> <td></td> </tr> <tr> <td>②維持管理費</td> <td>333</td> <td></td> <td>367</td> <td>305</td> <td></td> </tr> <tr> <td>③その他</td> <td>0</td> <td></td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>総費用</td> <td>3,220</td> <td></td> <td>3,449</td> <td>1,302</td> <td></td> </tr> <tr> <td>費用便益比(B/C)</td> <td></td> <td>32.62</td> <td></td> <td>28.76</td> <td></td> <td>76.18</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※便益(B)・費用(C)は、算出した各年次の値を割引率を用いて現在価値に変換した合計額</p> <p>【費用対効果分析手法】 治水経済調査マニュアル(案) 平成17年4月 国土交通省河川局</p> <p>【費用対効果分析における特記事項】 油川は平成16年度に整備計画を策定しており、その策定にもとづき再評価を実施したものとした。</p>	区分	主な項目	前回 (基年：H26)		今回(再々評価) (基年：R1)		備考	全体事業	全体事業	全体事業	残事業	便益 (B)	①一般資産増減便益	38,041		35,258	35,258		②農作物増減便益	22		30	30		③土木施設等増減便益	64,431		59,710	59,710		④その他の便益	2,527		4,184	4,184		総便益	105,021		99,182	99,182		費用 (C)	①事業費	2,887		3,082	997		②維持管理費	333		367	305		③その他	0		0	0		総費用	3,220		3,449	1,302		費用便益比(B/C)		32.62		28.76		76.18		大項目 評価  A ● B ● C
	区分	主な項目	前回 (基年：H26)			今回(再々評価) (基年：R1)		備考																																																																							
			全体事業	全体事業	全体事業	残事業																																																																									
	便益 (B)	①一般資産増減便益	38,041		35,258	35,258																																																																									
②農作物増減便益		22		30	30																																																																										
③土木施設等増減便益		64,431		59,710	59,710																																																																										
④その他の便益		2,527		4,184	4,184																																																																										
総便益		105,021		99,182	99,182																																																																										
費用 (C)	①事業費	2,887		3,082	997																																																																										
	②維持管理費	333		367	305																																																																										
	③その他	0		0	0																																																																										
	総費用	3,220		3,449	1,302																																																																										
費用便益比(B/C)		32.62		28.76		76.18																																																																									
(3) 事業の進捗	事業の進捗と今後の見通し	<p>(事業の進捗状況) 榎野川合流部から油川(下流)と分流する区間(L=280m)について現在施工中であり、JR山口線橋梁部及び県道横断区間については平成25年度に完成している。 (今後の見通し) 榎野川合流部から油川(下流)と分流する区間(L=280m)については、令和4年度完成を目的に進捗を図っている。その後、国道262号横断上流の一部完成済み区間を除き、現況油川との接続部までの流下能力向上対策区間について、令和9年度の完成を目指す。</p> <p>【事業費の変化】 有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/></p> <p>【事業期間の変化】 有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/></p>	大項目 評価  A ● B ● C																																																																												
(4) 代替案等の縮減の可能性	コスト縮減	護岸の裏込砕石には再生砕石を使用するなど再生材料の使用を促進し、コスト縮減を図る。 建設残土の処分においては、周囲の公共事業等と調整して可能な限り流用することとし、残土処分にかかる費用を縮減する。	<table border="1"> <tr> <td>中項目 評価</td> <td>大項目 評価</td> </tr> <tr> <td>a b</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td></td> <td>B</td> </tr> <tr> <td></td> <td>C</td> </tr> </table>	中項目 評価	大項目 評価	a b	A		B		C																																																																				
中項目 評価	大項目 評価																																																																														
a b	A																																																																														
	B																																																																														
	C																																																																														
	代替案	代替案としては現河川拡幅が挙げられるが、本河川下流部においては市街地として住宅が密集しており河川用地の確保が困難である。よって、現計画の放水路案が妥当である。	<table border="1"> <tr> <td>中項目 評価</td> <td>大項目 評価</td> </tr> <tr> <td>a b</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td></td> <td>C</td> </tr> </table>	中項目 評価	大項目 評価	a b	B		C																																																																						
中項目 評価	大項目 評価																																																																														
a b	B																																																																														
	C																																																																														
3 環境	配慮事項	国道262号付近までの区間の施工においては現河川部を掘削する箇所が少ないため、施工による濁水等の影響は少ないと考える。 自然環境の保全を図るため、可能な範囲で、植生が繁茂できる材料を護岸に使用する。																																																																													
4 対応方針	(事業実施主体案)	総合評価	● 継続                      ○ 見直し継続                      ○ 中止																																																																												
		評価理由	浸水被害の低減を目指し、事業を継続する必要がある。																																																																												
		備考																																																																													

# 油川 都市基盤河川改修事業



事業予定区間



過去の浸水状況



標準横断面図

